

保育者養成課程における 子ども・子育て支援の枠組 —親子支援ひろば「ぴっぱらんど」の実施準備—

瀬々倉 玉奈

1. 子ども・子育て支援が必要とされる現状と保育者養成

子育てが難しい時代といわれるようになって久しい。産業構造の変化による都市化や核家族化、家族のあり方が多様化するなかで、子育て不安は深刻化しており、子どもへの虐待も後を絶たない。この状況を受けて、幼稚園教諭や保育士等の保育者には、通常の教育課程や保育に加えて、子ども・子育て支援の観点をもち、実践を行うことが求められるようになってきている（厚生労働省，2018・文部科学省，2018）。

その一方で、子ども・子育て支援の重要な担い手である保育者養成課程の学生自身が時代の申し子であることから、教育の中でコミュニケーション・ワークなどを採り入れ、十分なコミュニケーション能力を身につけられるように配慮する必要性が生じている（瀬々倉，2018a）。

さらに、子どもにかかわる経験が少なくなっている学生たちに、如何に子どもや保護者に関わる経験を提供するかも喫緊の課題である。ここに、親子支援実践と支援者養成とを並行して行わなければならない難しさがある（瀬々倉，2019）。

京都女子大学発達教育学部児童学科では、上述したような社会からの要請を受けて、2014年に新築され、子育て支援ルームとして空間だけが用意されていたU101室を環境構成から始めている（瀬々倉，2018b）。室内については、教員や学生の多様な専門性を活かし、良質な家具や玩具、絵本などを揃え、1回生から4回生までが講義内外で壁面装飾にも協力している。また、室外、つまり、学内環境については、学生たちが実物を模した（身長や体重）赤ちゃん人形を抱いてキャンパス内を歩き回り、危険な箇所を見つけたり、女性用だけでなく男性用トイレへのオムツ替えシートやベビーシートの設置等、改善点を見いだして学園側に提案するなど、親子支援に必要な多岐にわたる整備を進めてきた。

また、2017年度からは、2つの形態による実際の親子支援活動を始めている。クローズド・グループの少人数で行う「ぴっぱらんシリーズ」と、出入り自由でノン・プログラムの「ぴっぱらんど」の2つである。その内容の違いを表1に示している。

「ぴっぱらんシリーズ」については、筆者のゼミ所属の3、4回生が中心となって実施

表1 2018年度 京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらん活動の2つの形式

	親子支援ひろば ぴっぱらん	
	ぴっぱらんど	ぴっぱらんシリーズ
実施形式の特徴	広く親子に開放	親子分離が原則
参加者	未就園児を中心にした不特定多数の親子	1歳6ヶ月～2歳児の親子6組
申込み	不要	申し込み制
頻度	年に8回（半日）	4回（週に一度）
内容	ノン・プログラム	プログラムあり
スタッフのかかわり方	見守り	子ども1人に担当者1人+保護者担当複数人
学生の主な学び	広く親子にかかわり、発達段階の特徴などを理解し、その対応に慣れる	親子に密に関わり、連続性の中で変化の過程によりそう
スタッフの専門分野	多様	乳幼児精神保健学ゼミ生。院生。 臨床心理士。幼稚園教諭・保育士

しており、親子支援活動としても、学生の学びの場としても充実してきている。2017年度から、初めてこの活動に携わった2018年度の4回生たちは、この貴重な体験を改めて見直し、後輩たちが引き継いだ活動を対象として卒業研究を行った。ぴっぱらんシリーズの実践と、支援者としての学生への教育については、別稿でも述べている（瀬々倉，2019）。

一方、「ぴっぱらんど」は、造形表現、発育発達、絵本学、仏教学、幼児音楽教育学、認知発達心理学、発達心理学、乳幼児精神保健学、障害児者心理学（担当順）のゼミが担当した。

「ぴっぱらんど」と「ぴっぱらんシリーズ」のいずれの形態においても、参加する親子と学生スタッフの安全が第一に優先されることはいうまでもない。また、親子にとって、心地よく良質な時間や空間、仲間など、現代の親子が喪失したとされる「三間」を提供することが大前提となっている。

上記の2つの親子支援活動の中でも、本稿では、2018年度に新たに開始した「ぴっぱらんど」について、広く児童学科全体が親子に関わっていくための準備過程について報告する。当然のことながら、「ぴっぱらんシリーズ」においても、記録用紙の工夫など親子支援と学生の学びが両立するような工夫を行っている。しかしながら、広く親子に空間を開放し、多様な専門性をもつ教員や学生が関わる「ぴっぱらんど」ならではの留意点や準備が必要となった。また、如何に情報を共有するかが課題となった。

2. 児童学科の学生や教員が広く活動に関われるような工夫

まず、学科内だけでは解決し得ない問題点を挙げる。先述したように、保育者養成において、通常の幼稚園教育課程や保育に加えて、子ども・子育て支援を実施できるように実践的な学びを提供することは必須となっている。また、関連する新カリキュラムが実質的には2020年度から講義化されるにもかかわらず、これまでこの活動については、専従とし

てかかわる事務職員やラボラトリースタッフなどがシステム上存在していなかった。その問題点を補い、かつ、学科内で如何に情報を共有し、広めていくかを考える過程は、親子支援実践の枠組みの構築過程であるといえることができる。

児童学科の在學生数は、約500人である。「ぴっぱらんシリーズ」は、原則として1つのゼミで行うため、情報の共有は容易であるが、広く講義内外でぴっぱらん活動の情報を共有し、実際の親子支援活動を有意義に展開していくためには、様々な工夫が必要となった。

まず、2016年度から新たに子ども・子育て支援に関するプロジェクトを開始するにあたり、学科内の4領域（児童発達学・児童表現学・児童文化学・児童保健学）から1名ずつの教員が選出され、子ども・子育て支援（ぴっぱらん）ワーキング・グループが構成された。このワーキング・グループで頻回に会議を行った上で学科会議において全体に諮りながら、以下の作業を行った。

(1)共通で使用する書類・記録用紙の書式などの作成

以下に、作成した書類などを参加者にお渡しする書類と、スタッフに配布する書類とに分けて列挙する。便宜上、通し番号を使用する。

【参加者にお渡しする書類】

①「ぴっぱらんど利用案内」と「ぴっぱらんど同意書」

「ぴっぱらんシリーズ」の場合は、事前申し込み制であるが、「ぴっぱらんど」は不特定多数の親子が出入り自由という形式で行われている。幼い子どもの安全や盗難防止に留意していただくために、受付において「ぴっぱらんど利用案内」を用いて趣旨を御説明し、「同意書」に記入した上で、利用していただくようにした。

②「医療機関に関する情報」

必要に応じて配布できるように、大学所在地である京都市内の病院で、ぴっぱらんど開催日の日曜祝日にも対応可能な複数の病院について調べ、地図や電話番号、診療科目等の情報を記載した資料を用意した。

【スタッフに配布する書類】

③「ぴっぱらんど事前準備・設営マニュアル」

ぴっぱらん活動を行っているU101室は、専有の部屋ではないため、毎回設営と片付けが必要である。「ぴっぱらんシリーズ」と異なり、毎回異なったゼミ生が担当するため、案内表示の掲示位置や室内のセッティング、男女別のオムツ替えコーナーや授乳室、飲食コーナーなどの設営について、マニュアルを作成した。

④「ぴっぱらんどの流れ」

初めての試みであるため、担当者がイメージしやすいように大まかな流れを記載した。

⑤ 「ぴっばらんど記録用紙」

今後の活動の資料とするために、参加者数やスタッフの名前、実施した遊びや使用した絵本、楽曲、引き継ぎ事項などを記す記録用紙を作成した。

⑥ 「ぴっばらんスタッフへの個人情報遵守の確認」

通常の実習と同様に、個人情報遵守が必要であることを明記した。この書類については、ぴっばらんど、ぴっばらんシリーズ共通である。

⑦ 「ぴっばらんど 急病等への対応」

急病やケガなどが発生した際に、どこに連絡し、どのように対応するべきかを明記した。

⑧ 「ぴっばらんど担当教員へのお願い」

毎回異なる教員が担当するため、行ってもらう内容を具体的に記した資料を用意した。

(2)コミュニティの設置

上述したように、(1)で作成した種々の書類作成の過程に伴って、「ぴっばらんど」ならではの枠組みを構築していくと共に、情報の共有が課題となった。様々な機会をとらえては、筆者らがぴっばらんの2つの活動について紹介するだけでなく、ぴっばらんど実施にあたっては、担当ゼミのリーダーに毎回詳細な説明を行ってきた。

さらに、京都女子大学に在籍している学生や教職員が使用する京女ポータル内に、「ぴっばらん」のコミュニティ（図1）を設けて、上記の各種書類の他、諸連絡を関係者



図1 ぴっばらんコミュニティ

保育者養成課程における子ども・子育て支援の枠組

びっばらんど 関係書類一式		
びっばらんどの関係書類一式です。 担当教員、学生リーダーはご確認をよろしくお願致します。		
資料タイトル	形式	閲覧状況
びっばらんど担当教員へのお願い20180730.docx	ファイル	確認
びっばらんど急病等への対応20180730.docx	ファイル	確認
びっばらんど利用案内20180727.docx	ファイル	確認
びっばらんど同意書20180730.docx	ファイル	確認
びっばらんど事前準備・設営マニュアル20180730.docx	ファイル	確認
びっばらんど記録用紙20180730.docx	ファイル	確認
びっばらんスタッフへの個人情報遵守の確認20180730.A.docx	ファイル	確認
びっばらんどの流れ20180730.docx	ファイル	確認

図2 コミュニティ内の書類に関する表示

びっばら樹		
びっばらんの語源である、ピッパラ樹(菩提樹)が、図書館前にあります。 6月初旬頃にはお花が良い香りと共に咲きますよ。 葉っぱは、ハートの形をしています。		
資料タイトル	形式	閲覧状況
ピッパラ樹	ファイル	確認
ピッパラ樹近景20180612.jpg	ファイル	確認
ピッパラ樹花アップ20180614.jpg	ファイル	確認

図3 コミュニティ内のピッパラ樹に関する表示



図4 コミュニティ内のピッパラ樹の写真

が閲覧したり、ダウンロードしたりできるようにした(図2)。

その中には、「びっばらん」の名前の由来であり、キャンパスの図書館前に植樹されているピッパラ樹(菩提樹)の写真(図3・4)も掲載している。ピッパラ樹は、本学の建学の精神を抱合する大切なシンボルである。

なお、ピッパラ樹の葉が逆さまのハート型をしていることから、図1にあるびっばらん



図5 ぴっぱらん手遊び歌の動画

✦ ぴっぱらんの手遊び歌
編集

ぴっぱらんの手遊び歌を2017年度の岡林ゼミ3回生さん達が創作してくださいました。
ぴっぱらん活動の始まりと終わりに、みんなでやって下さいね。

資料タイトル	形式	閲覧状況
✦ぴっぱらん手遊び歌、対面型(岡林ゼミ)201805.MOV	ファイル	確認
✦ぴっぱらん手遊び歌、単独型(岡林ゼミ)201805.mp4	ファイル	確認

✦ テーマ曲
編集

ぴっぱらんのテーマ曲です。
2017年度卒業研究として、和田直穂さん(深見ゼミ)が作曲してくださいました。
アプリで作成し、縦笛はご本人が吹いているそうです。
ぴっぱらんの活動の際には、流すようにして下さい。

資料タイトル	形式	閲覧状況
✦ぴっぱらん(2).m4和田直穂作20171116.m4a	ファイル	確認

図6 コミュニティ内の「ぴっぱらん手遊び歌」・「ぴっぱらんテーマ曲」に関する表示

キャラクターが創作された（前川，2017）。

さらに、幼児の音楽教育ゼミの学生が創作した「ぴっぱらん手遊び歌の動画」（図5）、ICT音楽教育ゼミの学生が卒業研究として作曲した「ぴっぱらんテーマ曲」（和田，2017）なども含まれており、登録されたメンバーであれば自由にダウンロードできるように設定した（図6）。

3. 今後の課題

本稿では、広く児童学科内で子ども・子育て支援活動を展開するために、枠組みの構築過程において作成した各種書類の概要、情報共有を行うためのコミュニティの設置などを中心に報告した。その作業は一定の効果をもたらしており、担当回の学生たちが、コミュニティから動画をダウンロードし、楽しそうに手遊び歌の練習をする様子も認められた。

しかしながら、情報を共有しながらぴっぱらんとを実施するために、結局、ワーキング・メンバーは、毎回、担当教員と共に、活動を見守ることとなった。この活動が学科内に浸透するには、さらなる検討や工夫が必要であることが理解できる。

また、ノン・プログラムを基本とする「広場型」に近い形態での開催が関係部署から提案されたが、そのような形態の施設は現在、地域で複数開設されており、定義に則った運営が行われている。むしろ、今後は、京都女子大学児童学科ならではの多様なゼミのオリジナリティを発揮できるような活動にするほうが良いのではないかと考えている。

いずれにしても、今年度の試みを元に、今後のあり方を改めて検討していきたい。

付記

京都女子大学親子支援ひろば「ぴっぱらん」の活動は、京都市の学まち連携補助事業や、学内の教育活動予算、教育用機器備品費の活用等によって行われている。

また、本稿で例示した各種書類は、ぴっぱらんワーキング・メンバーである岡林典子、

間瀬知紀、黒田義道、筆者が分担して作成し、児童学科の学科会議で認められたものである。

文献

厚生労働省（2018）保育所保育指針解説、フレーベル館

前川由梨奈（2017）ぴっぱらんキャラクター

文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説、フレーベル館

瀬々倉玉奈・大江文子（2019）保育者養成課程における親子支援の実践と支援者教育—赤ちゃんとの接触・育児経験に関する調査結果をもとに—、京都女子大学発達教育学部紀要、第15号、pp. 121-129

瀬々倉玉奈（2019）京都女子大学親子支援ひろば「ぴっぱらんど」、京都市「学まち連携大学」促進事業活動報告書2018、刊行予定

瀬々倉玉奈（2018a）保育者養成におけるコミュニケーション・ワークの導入、京都女子大学発達教育学部紀要、第14号 pp. 143-152

瀬々倉玉奈（2018b）乳幼児期の子ども・子育て支援実践と支援者養成—京都女子大学親子支援ひろば ぴっぱらん—京都市「学まち連携大学」促進事業活動報告書2017、pp. 17-19

和田夏穂（2017）テーマソングの創作～子育て支援ルーム「ぴっぱらん」～、京都女子大学発達教育学部児童学科 平成29年度卒業研究抄録集、pp. 147-148